令和　５年度　園評価書

園番号　　2　　園名　安倍口こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策
たくましい子	気づき・ 自分なりに考えやってみよう！	・五感を働かせて遊ぶ中で、「面白い」をいっぱい見つける	○自然の変化を感じながら遊ぶ姿があるが、すぐに興味がなくなる子もいる。 ○その時期ならではのこと・ものに興味を持ち、色・形・においなどに気づいて遊ぶ姿が見られる。	A	A	大人と子どものイメージの差 ・大人は「できる・できない」「これはこうなっていくだろう」など経験からわかっていて動き始める。（定形型のイメージ）だが、子どもは「楽しいな」「面白いな」で動き始める。（迷いのイメージ）経験がないことは遊んでみようと思わない。小さなプロセスを重ね、「こうするとこうなるんだ」（解決のイメージ）と楽しさを経験していくことが重要。	・子どもが興味を持てるように、保育者も一緒に気づき、発見していく。
		・気づいたことから、「こんなことができるかな？」と自分なりに考えてやってみようとする	○「○○やりたい」「こうしたい」という思いを出せるようになってきている。 ○遊びや生活の中で「これやりたい」「面白そう」と思ったことを言葉・動き・表情などで表現している。	A	A		・子どもが表現したことを受け止め、一緒に考えながら試してみる。
		・自分の考えたことを思考錯誤して、何回でもじっくり試そうとする	●苦手なことに対して「やらない」と諦めてしまう子もいる。 ○好きな遊びややってみたいことをやり通す力が少しずつついてきた。 ●考えたことをやってみようとする姿は多く見られるが、継続しないことがある。子どもの実態を考えると難しい。	B	B		・やってみようとする姿を認め自信につなげる。 ・子どがやりたいと思ったことができるように教材の準備をする。 ・子どもの様子を見守ったり励ましたりすることを継続していく。

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・異年齢で関わり合う中でも、子どもの発達や経験を十分に把握し一人一人に合わせた適切な援助を行っている	○子どもの様子を語り合うことで、その子の姿を共有できている。 ●上手く手立てができないこともある。 ○鬼遊びやぽかぽかタイムの参加の仕方を工夫して実施した。 ○各学年の遊びの拠点があることで、発達に合わせてかかわり、異年齢でも遊べるようになった。	B	B	・行事などのイベントが好きで家ではなかなか思い切りさせてあげられないが、園でこつこつと作って来たものを持って帰ってきた所をみると思い切り経験させてもらっていることがわかってよかった。イベントがない時にはどんなことをしているのかと思うことがあった。 遊びのイメージの違い ・行事（クリスマス・節分など）は子ども同士で同じイメージが持ちやすく、個々の興味から行事への参加の仕方を考えていける。職員も同じく行事の時は子どもとイメージを共有しやすいが、普段の遊びの時の遊びのイメージをつなげていくのが難しい。 ・事故防止に引き続き気を付け、近頃は不審者だけでなく生き物も出没する危険がある。その時は近隣の学校などと連携をして情報を共有することも大事。 ・食事を一緒にする時、心が開放される。その時にいろいろ話をすると子どもの心の中がわかりやすい。 ・映像（写真）を通して「○○面白かったね」とイメージを共通していく、その場がとてもいい。 ・おたよりの写真を見せながら、家の人に一人ずつ話して説明している。話すことが好きで、写真があると思い出しながら話しやすそうだった。 ・学校も授業数を来年度減らすように通知がきているが、昼休みや２時間目の休み時間、１年生の秋のお店屋さんなどに来ることは可能だと思う。	・同じ遊びの中でも個々にどんな経験が必要なのかを考えていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・一人ひとりの生活リズムを理解し、穏やかな気持ちで生活できるよう子どもの気持ちに寄り添っている	○一人ひとりの体調などに合わせた活動を考えている。 ○安定した生活リズムで過ごしている。	A	A		・個々に体力がつき、経験も増えてきた。来年度は４・５歳児のみの生活のため、評価指標を検討する。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・「おもしろそう」「こうしてみよう」と思った時に考えたり、試したりできる環境が用意されている	●子どもの姿を予想して教材や環境を用意しているが、後手に回ってしまうこともあった。 ○年少研究保育の反省より見通しを持つことの大切さがわかり、職員一人ひとりが意識して早めに教材を準備している。 ○季節や子どもの興味に合わせて保育室・園庭のワゴンを整えた。	B	B		・どんな教材がいいのかをまずは保育者が知る。 ・子どもたちが選択できるように教材の出し方を工夫したり、遊びの内容を見直したりしていく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・様々な場面を想定しての避難、不審者訓練を行い、緊急時の身の守り方を身につけるよう指導している ・ヒヤリハット、ケガの分析を行い、事故防止につなげている	○ヒヤリハットをすぐに改善することで、怪我の予防につながっている。 ○避難訓練だけでなく、普段から話をしている。（ハンカチを持つ、上靴を履くなど）	A	A		・引き続き年間で様々な想定を考えて、計画的に訓練していく。 ・今年度は子どもの怪我の処置１件、職員の怪我の処置２件の通院があった。常に職員の意識を高めるように引き続き毎日の打ち合わせでヒヤリハットについて確認していく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・早寝早起き朝ごはん・朝の排便習慣等家庭と連携して健康的に過ごせる様にし、園生活では食育や生活習慣の充実に心がける	○食育のつどいの様子をボードで掲示し、保護者にも内容が伝わるようになった。 ○食事の前に子どもたちと赤・黄・緑キッズの食べ物の話などをしている	B	B		・今年は給食時に食べながら伝えることで食べる意欲につながり、職員も子どもも無理なく取り組めたと思う。保護者にはクラスだよりの中で、クッキングや野菜の収穫などを紹介しながら、食育についても伝えていく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・一人ひとりの子どもに合った支援計画を立て、毎月見直したり、外部研修で学んだことを活かしながら全職員で共通理解をもち適切な支援している	○学年会議やケース会議を月行事や週で位置づけて行い、個々の様子を共通理解している。 ○ケース会議や学年会議で支援方法を検討し、共通理解している。	B	B		・支援を必要とする子が多いため、どの職員でもかかわれるようにする。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・責任をもって分掌に取り組み、連携しながら、チームで保育を進めるという意識をもっている	○職員間で相談しながら行事を進めることができた。 ○それぞれ分担して行っている。	A	A		・個々の意識が高まることで、お互いにのりしろをもって取り組めた。今年度の取り組みで気づいたことを引継ぎに活かし、来年度も効率よく園運営できるようにする。
6 研　修	(1)研修体制の充実	・研修テーマ「おもしろそう」「こうしてみよう」という思いが実現できる環境の工夫と具体的な手立てについて振り返る	○研究保育や学年末の振り返りなどをしながら、課題をみんなで確認し合っている。 ○園の課題を意識して改善することが出来ていた。（年少研究保育より） ○木曜日の振り返り・金曜日の打ち合わせの報告を継続し、子どもの姿・遊びの共有を職員で語り合い共通理解していく。 ○研究保育をして手立てについて振り返りができた。	B	B		・見通しを持って教材の準備をする。 ・子どもと一緒に遊びを楽しみながら、面白さを探っていくことで遊びを広げていく。 ・考えて遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・子ども達が伸び伸び遊べる安心・安全な環境が整えられている ・季節に合った遊びや発達に必要な体験ができる環境が用意されている	○遊びと行事のつながりを意識しながら、進めることができた。 ○季節や子どもたちに経験してほしいことなどを考えて、環境を整えている。	A	A		・職員数が減少するため、本園の広い敷地の中で老朽化も進んでいることを配慮し安全点検をより丁寧にする。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・園便りやクラスだより、行事毎の活動の様子を写真を交え視覚的に保護者に伝え、家庭との連携を図る	○おたよりに写真を入れることで、保護者にも園の様子が伝わりやすいと感じる。 ○写真や子どもの言葉などをおたよりにして、保護者一人ひとりに伝えている。	A	A		・子どもと共に遊んでいるとなかなか写真撮影をすることが難しい時があるため、撮影に他の職員をお願いすることも打ち合わせなどで決めていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・近隣の小学校やこども園との交流・公開保育、地区作品展参加などを行い、情報交換をして連携を図る ・安倍口中央こども園と一緒に行事を行ったり、遊んだりする	○小学校や安倍口中央と計画的交流できている。 ○小学校訪問や安倍口中央との交流をし、情報交換をしている。 ○運動会の他にもサッカー教室や動物プロジェクト、コンサート、小学校訪問などで中央こども園と一緒に様々な経験をさせてもらえて、子ども同士も顔を覚えて声を掛け合い楽しむことができた ●運動会は暑さとお互いの子どもの実態から検討し、来年度は各園別々で実施する	A	A		・安倍口中央との交流は引き続き行い、美和こども園との交流も計画して、多くの友達がいる環境も経験できるようにしていく。
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・地域の様々な人との交流を通し、園ではできない経験をする	○園外に出ることで、子どもたちも地域のことに少しずつ興味を持つようになってきた。 ○地域の方（内宮・安倍口サロン・楽寿の園）との交流が継続してできている。 ○コロナが落ち着いて地域の高齢者の方と多く触れ合うことができた。	A	A		・高齢者とゲームをするなど、よりかかわりが深まるような内容を工夫していく。来年度は４・５歳児のみのため、評価指標を継続児の姿に合うように変える。